

2019年6月実績概要(メモ)

(2019. 7. 18)

定修規模の増減から、前年対比では一部で減産品目があるものの大幅な伸長品目が多々あり。

1. 生産動向

イ) エチレン 492,900トン

前月比 ▲ 1.7% (▲ 8,500トン)

前年同月比 +20.5% (+83,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	-
定修要因等	+ 2.5%	+ 22.7%
能力増減	-	+ 0.2%
稼働率変動	▲ 1.0%	▲ 2.4%
生産増減率	▲ 1.7%	+ 20.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.8%→ 当月94.9%← 前年同月96.7%

定修プラント：前月2社2プラント→ 当月2社2プラント ← 前年同月3社3プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減に併せて定修規模や稼働率要因からPP、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、トルエン、キシレンなどの14品目がマイナス。HD、PS、塩ビ樹脂の3品目は主に稼働率要因や定修規模差からプラスとなった。

前年比では、主に定修規模差からLD、PP、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、EG、キシレンなどの9品目で大幅なプラス。HD、SM、AN、SBR、トルエンなどの8品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の減少と併せて定修規模差や稼働率要因からLD、PPはマイナス。HD、PSは主に稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模が縮小したLD、PPでは大幅なプラスとなった。HD、PSは定修規模の増加と稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

連休があった前月対して、当月はユーザー側の稼働日数の増加に伴い各樹脂ともほとんどの分野において出荷が増加し、LD、HD、PP、PSともにプラスとなった。

前年比では、LDではフィルム分野の減少、HDは中空成形分野での増加が見られるもののフィルム分野等の出荷減少もあり、PEではいずれもマイナスとなった。PPは、前年が定修規模が大きく十分な出荷が叶わない状況にあった。当年は、定修規模も減少し、射出成形分野を中心に出荷量が増加しプラスとなった。PSは雑貨・産業分野での増加がある一方で、包装分野の減少が相殺し前年並みの出荷に留まった。

ハ) 輸出

前月比では、前月まで減少が続いていたLD、PPは当月は若干増加しプラス、HD、PSはマイナスとなった。

前年比では、引き続き国内向けの出荷が増加傾向にあるPPでマイナスとなったのをはじめ、LD、HD、PSでもマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSともに減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは上昇、PP、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、HDはやや高め、PPはタイト傾向、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LD	▲ 2,300	3.3	3.6
HD	▲ 19,800	3.5	3.6
PP	▲ 51,300	2.8	2.8
PS	▲ 6,400	1.5	1.5

以上